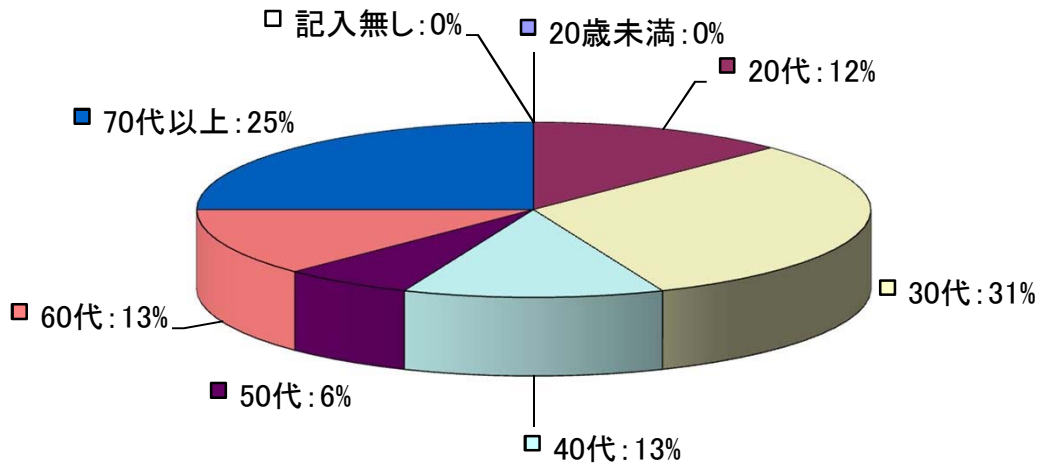


第33回 宮崎海岸市民談義所 アンケート結果

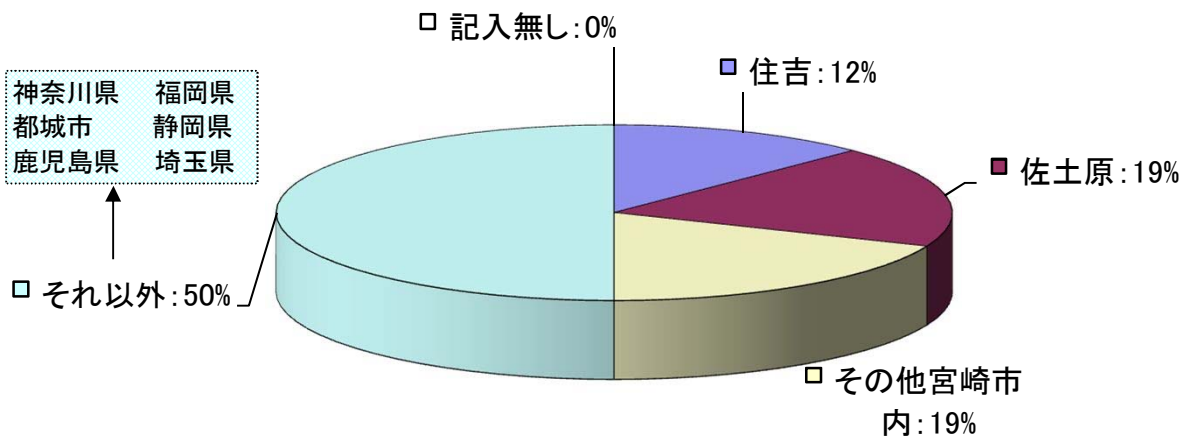
(第33回談義所:2016年11月1日(火)19時00分~21時00分実施、アンケート回収数:16)

1. あなたのことについて教えてください

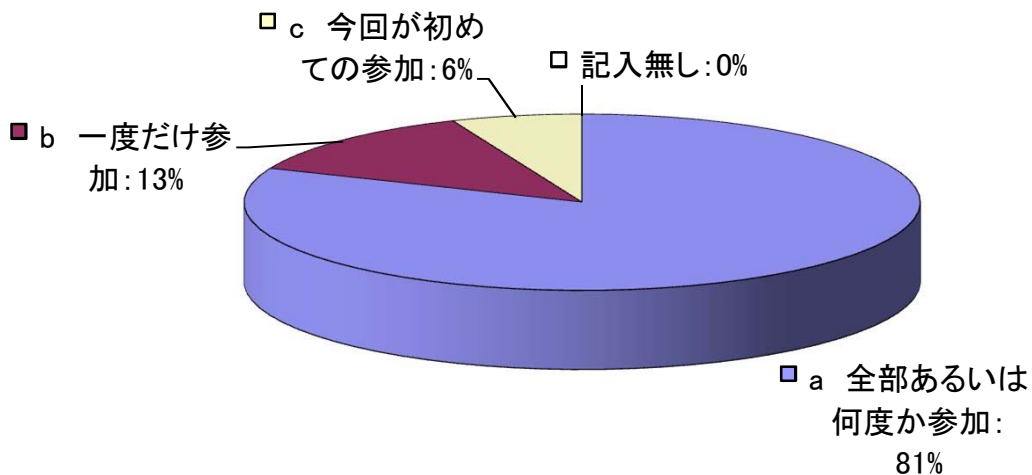
1-(1) 年齢は？



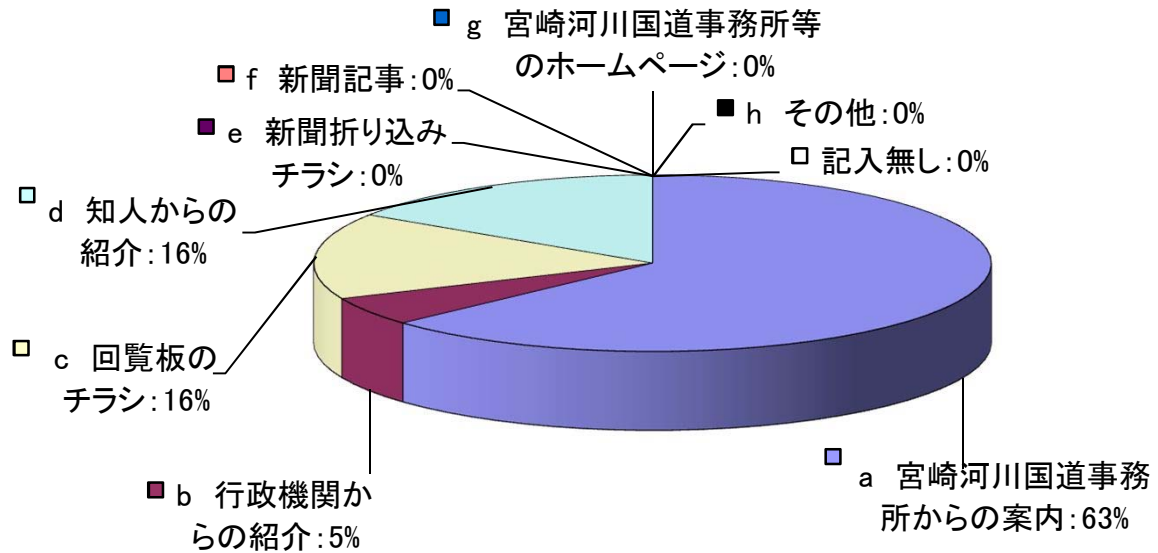
1-(2) 住んでいるところはどこですか？



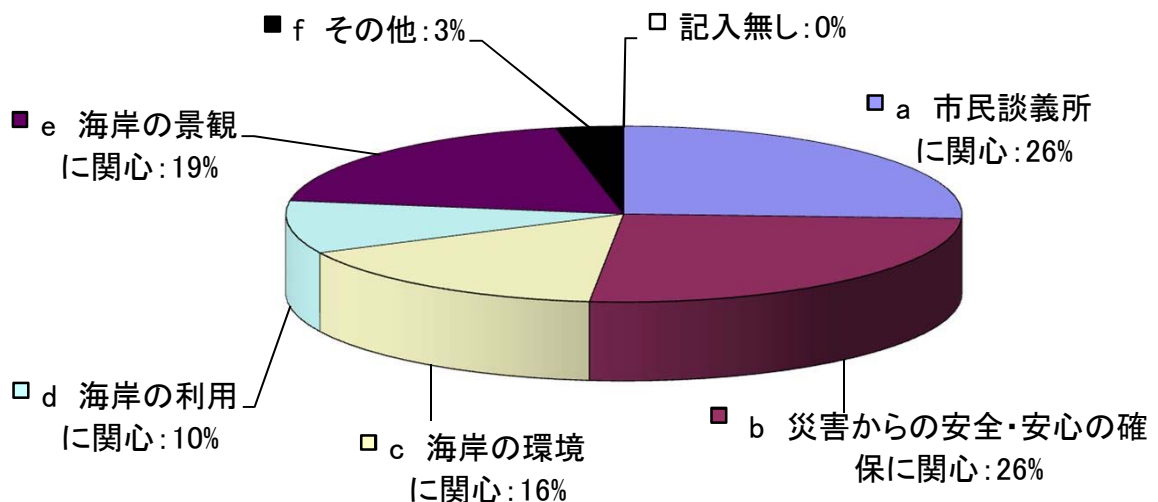
1-(3) これまでに参加したことはありますか？



2. 市民談義所を何によって知りましたか？ (複数回答)



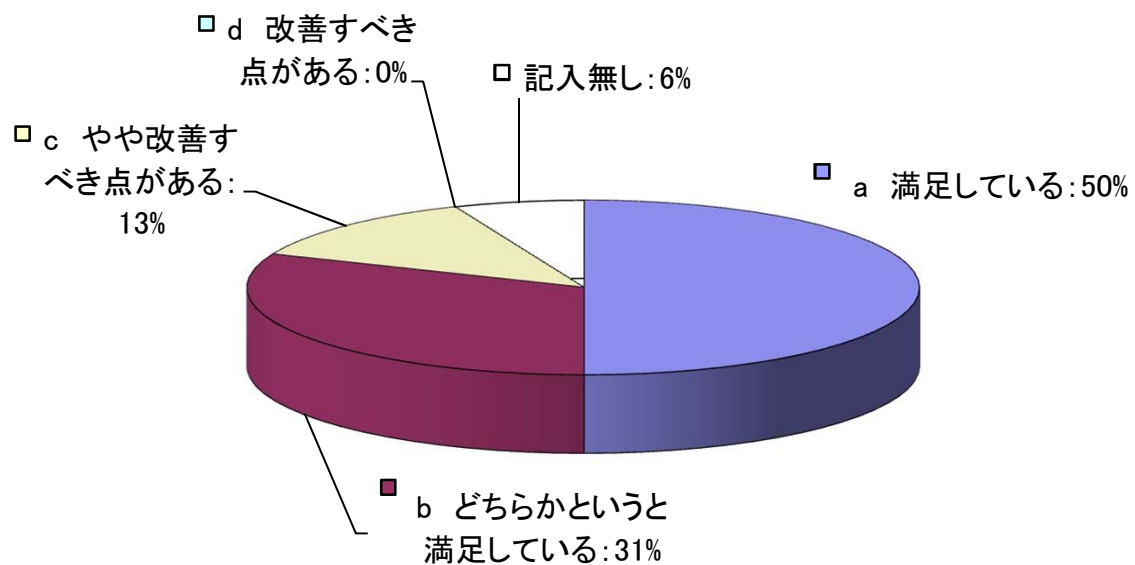
3. 今回参加された動機は何ですか？ (複数回答)



<その他ご意見>

・宮崎海岸の侵食対策事業内容の確認のためです。

4. 今回の市民談義所の満足度は？ (複数回答)



a 満足している(理由)

- ・細部に渡り、談義されていて内容もよく分かるから。
- ・市民の方々の生の声が聞けたことです。
- ・いろいろの人の話が聞けていいと思います。
- ・漁協の方の話が聞けて有意義であった。
- ・漁協者の話が聞けた。

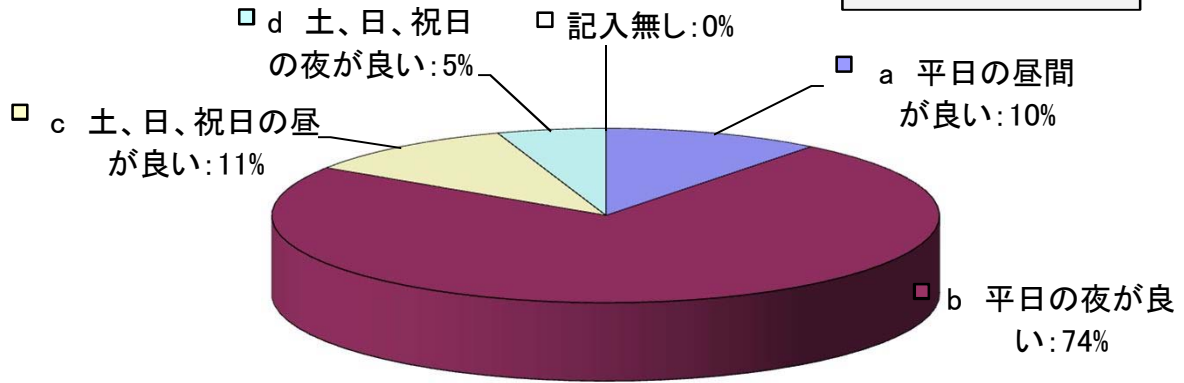
c やや改善すべき点がある(提案)

- ・意見を云える時間がない。
- ・談義所の目的は十分に理解できますが、事業主体としては当海岸沖で権利を有する人達と工事施工に伴う損失等について事前に別途の場で交渉し、漁業者の承諾を取って、それから一般市民と談義をして欲しい。

5. 市民談義所の運営に関して

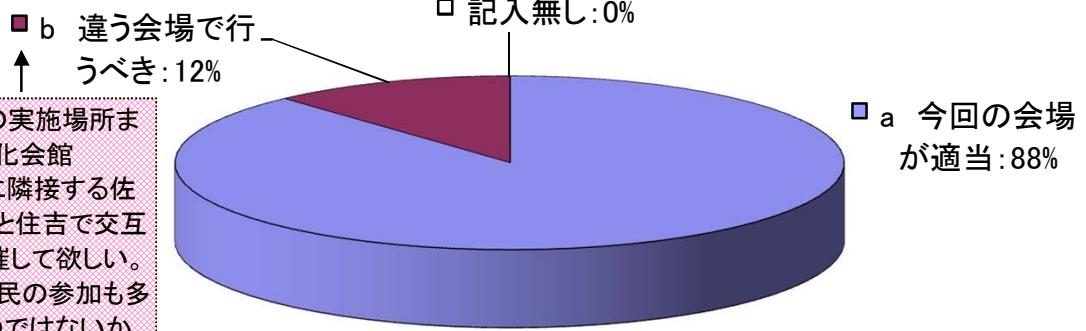
5-(1) 実施する曜日と時間について (複数回答)

<欄外意見>
金曜の夜が良い。

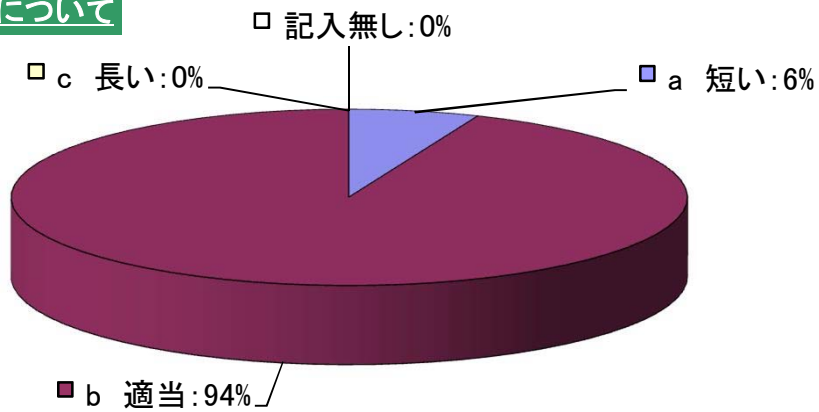


5-(2) 会場について

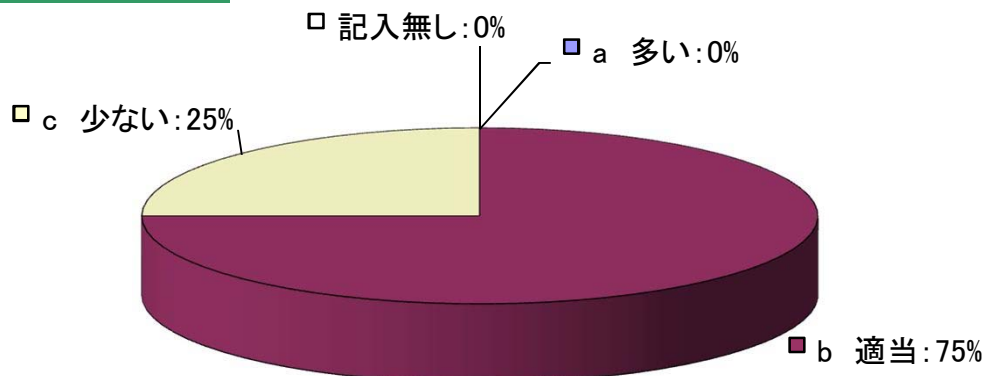
・今回の実施場所または文化会館
・現地に隣接する佐土原町と住吉で交互に開催して欲しい。
一般住民の参加も多くなるのではないかな。



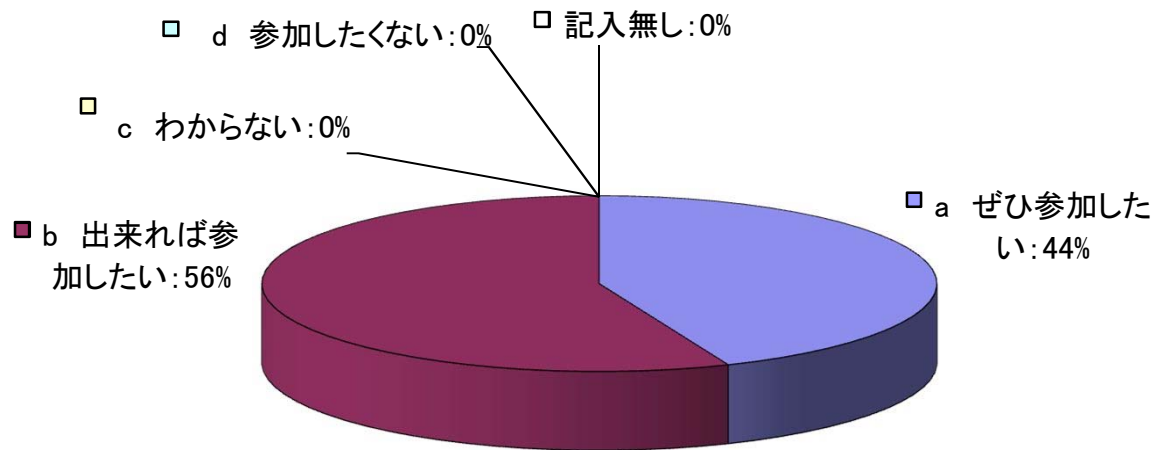
5-(3) 時間の長さについて



5-(4) 参加人数について



6. 次回、市民談義所への参加の意向



7. 次回以降の市民談義所で、談義したいテーマ等

- ・地球の温暖化現象により海の水位は今後も上がり続ける中で海岸浸食は免れません。例えばですが、養浜や砂を戻す処置に費用を使うよりも陸地を整備していく考え方(海岸を陸地に後退させるイメージです)は間違ったことかもしれませんが、いかがでしょうか？
- ・今回の進め方で良いと思います。
- ・川が綺麗に成る為にはダムを綺麗にしなきゃならん。海の生産の基と成る森の養分と共に砂も一緒に流して貰えば川が蘇る。定期的に流せる様に九電は努力するべきである。未来の世代のために責任がある。
- ・宮崎海岸の季節ごとの海象(波、風、潮)等を知りたい。
- ・宮崎海岸の最近の変化の中に、宮崎港・宮崎空港の整備で、突堤を海の方に築造されました。この事業の着手前、施工中、完成後に各事業者が取った対応を参考にして、この事業の完成後の潮流等の変化に対応する、海浜海中の砂の流失減少防止策は、どの工法が現在の科学技術ではベストであるかは、専門家で情報収集力のある事業主体である国交省でありますので、自信と責任を持って説明説得をして欲しいです。市民は、自分の経験と知識で主張しますが、これは道路河川では、この公共施設を利活用する住民の意見等を聞き、参考になるものがありますが、地滑りとか今回の海浜海中の土砂流失は、地下、潮流、海中の専門的な調査等に基づく設計でありますので、事業主体が設計した工法で、進めていただきたいです。

この談義所で、市民から技術的意見で、特に初参加の方は過去に出た意見と同様な意見があり、混乱しているし、時間の浪費にもなっているのではないかと思います。

それで、談義所では、施工の進捗状況と前回説明した内容を変更したものの説明報告と、これに対する質問で市民の不安は解消し、納得されると思います。

また、漁業権を持っている漁協者への対応は、一般市民と海岸の散歩、サーフィンと次元の異なるものなので、別途に漁協組合と交渉され、突堤の長さ等、施行に伴う損失が受任の範囲内であるのか、

漁協と妥結されたもので設計されるものと思っています。

それで、市民談義所の開催は、年度初めと、年度終了前の2回で、住民の意見は得られると思います。

国交省は、環境を重視しながら、国土保全事業を早期に完成させ、市民の不安の解消と、安全で安心して生活できる環境を再現してください。

8. その他、市民談義所の進め方等についてのご意見

<対策について>

- ・毎年宮崎港へ22万 m^3 堆積していることを考えると(20~27年度)245万 m^3 -35万 m^3 =210万 m^3 の砂が残留しているはずだ。210万 m^3 の砂はどこへ消えたのか何故船は入航出来るか不思議でならない。前回同様現在迄の結果と実態を図表と共に浚渫関係者に発表して戴きたい。
- ・対策の目標、砂浜を回復し浜幅50mを確保するに対して、評価を表してほしい。
- ・もう少しデータを多面的に増やして欲しいと感じました。

<市民談義所について>

- ・質問に対し、『先程も説明しましたが』と発言されるのは相手に不快な感情を抱かせてしまいます。